

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/1F2F)

事業所番号	2770302186		
法人名	医療法人協仁会		
事業所名	医療法人協仁会 グループホーム第2なごやか		
所在地	大阪府寝屋川市黒原城内町25-7		
自己評価作成日	令和5年11月6日	評価結果市町村受理日	令和6年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同法人の在宅医療との連携により入居者18名全員が往診を受けられている。24時間体制で臨時往診や相談する事が出来る。訪問看護師による入居者様の日常の体調管理も行っている。医療・看護・介護と連携しながら入居者の心身の安定を図り長期的な入所が可能となっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は医療法人傘下で介護部門(老健・グループホーム及びデイサービスセンター)の一翼を担い開設17年目を迎える。医療法人傘下ということで、手厚い医療支援を受けることができている。着任2年目の管理者を中心に、職員は明るく、そして協力的に日々の活動に取り組んでいる。特に、運営において丁寧な取り組みが見られ、例えば、業者から仕入れた食材を一から調理して食事を作っていることが挙げられる。他に、2ヵ月毎のモニタリングで、担当職員が「目標達成状況・今後の課題」欄を丁寧に書き込んで家族に送付し、貰った意見を介護計画に生かす取り組みもある。また、当事業所では園芸にも熱心で、庭の花壇に種から育てた花を楽しむ、芋の苗を植えて収穫を楽しむなど、草取り・水やりなども含め、利用者が作業に参加し土のふれあいを楽しんでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を理解し、入居者が望む生活を実現するためにスタッフ一同努めている。スタッフ個々に年間票を検討し、具体化させ意識付けに努めている。	事業所理念3項目「・人権の尊重及び身体拘束を排除し、安全と安心を守る・より質の高いケアとサービスの提供・家庭や地域に開かれた施設」を玄関・事務所・台所に掲示している。ケアの振り返り時に理念との関連で、質の良否を判断したり、より良質のケアを追及したりできるよう全員がめざしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染流行の為、全ての活動を中止。自治会や地域のケアマネ連絡会等へは参加し、地域の情報交換を行っている。独居高齢者の見守り活動の一環として鍵預かり事業の協力施設となっている。	自治会に加入しており、地域の自治会の全体報告会(年1回)に参加している。地域包括支援センター主催の地域のケアマネ連絡会にも参加して、地域の情報を得ている。鍵預かり事業で預かっている鍵は16名分で、事業の説明(年1回)を社会福祉協議会が職員に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「安心と希望の委員会」メンバーとして認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目標に地域で取り組みに参加していたが、新型コロナウイルス流行のため、中止中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス流行の為、書面や電話で実施していたが、令和5年5月より入居者・家族・自治会・地域包括支援センター等のメンバー構成で会議を再開している。	運営推進会議(メンバーは自治会長・地域包括支援センター職員・利用者と家族・職員)は対面で実施している。欠席予定者には予め意見を貰い当日の議事録に記している。議事録には現状と活動報告・課題や困りごと・利用者や家族からの要望・研修内容など詳細に記されている。	せっかくの優れた運営推進会議録でもあり、事業所の努力と活動実態を理解してもらうためにも、是非とも各家族に送付されることを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「安心と希望の委員会」のメンバーに高齢介護室、社会福祉協議会、福祉委員会、自治会長のメンバーで構成されているが新型コロナウイルス感染流行のため中止。	生活保護受給者も多く入居し、市の保護課とは手続き等で頻繁に連絡をとっている。ケースワーカーも電話での問い合わせや訪問があり状況を伝えている。地域包括支援センター主催のケアマネ連絡会や社会福祉協議会主催の報告会などに出席して市や地域の情報をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回学習会を実施し、スタッフ自ら振り返りを行い身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	マニュアル及び指針を作成し身体拘束等の適正化のための委員会を3か月に1度開催している。研修も3回予定の内2回は既に実施済みである。研修後に○×式テストで確認している。不適切な言葉遣いは利用者をより不穏に混乱させるということを皆で自覚し声掛けしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回身体拘束等の適正化の為の委員会を実施。身体拘束及び可能性のあるものがないかを精査し、定期的に勉強会をする事で身体拘束・虐待対策の周知をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設では成年後見人制度を活用されている入居者が3名います。今後も必要であれば相談・支援を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っているが、必要に応じて連絡を密に取るように心がけ、理解・納得を頂ける関係作りをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とコミュニケーションを積極的に図るよう心掛けている。意見箱を設置し、その日の内にスタッフと検討し、要望や意見を反映させている。また、本部へも報告を行い共有している。	面会は玄関先10分程度で実施している。利用者の写真を多く載せた事業所便りは家族に好評である。家族の意見は連絡時に聞きとったり、運営推進会議に出席する家族(数名)からは直接意見を貰っている。家族の要望をもとに事業所だよりにヒヤリハット等の件数を掲載するようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の職員会議や各委員会からの意見を話し合い業務に反映させている。	年に1~2回職員面接があり職員から活発に意見を貰っている。職員は委員会(園芸環境・感染・行事レク等)に属し会議を行い適切な会議録も作成している。また、補修・発注など所内の業務関係も係りを分担している。居室担当制を敷き、担当が特に統括的に見守りをするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で福利厚生を積極的に行っている。委員会や入居者を各スタッフ担当制にしており、各々が責任感を持って入居者・家族に的確な支援を行えるようにし、モチベーションを維持できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で人材育成プロジェクトがあり、責任者に対して研修会を実施している。個々の能力に合った指導方法を実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設や地域包括支援センター・ケアマネ交流会における勉強会や意見交換を通じてネットワークを構築している。また、法人内の3つのグループホームで学習会を行い質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者・家族のニーズを把握し、入居前より不安感を取り除けるように心がけ、入居後も要望や困りごとに迅速に対応しながら安心して暮らせる環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学して頂き、施設的环境や雰囲気を見てもらっている。その上で施設の特徴や強み、入居後の生活について説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が健康維持の医療や認知症状についての悪化予防や緩和を求めているケースが多く、医療との連携・認知症状の緩和の活動について説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が楽しみや生きがい・役割を持てる環境作りに努めている。入居者の気持ちに寄り添い、家族のような関係作りを築いている。意思疎通の困難な方にも沢山声をかけ普段と体調不良時の変化にも早期に気付けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設生活の近況や本人の体調についてモニタリング・新聞・メールなどで伝えるようにしている。 体調変化があった際はその都度タイムリーに報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られたり、気候の良い日はご家族様とも外出し、お散歩をして頂いている。	家族の面会は、法人の指示により条件付き（玄関で10分程度）で行っているが、頻繁に訪れる家族もある。コロナ禍では面会も身内に限っていたが、今は家族の了解の上で友人の訪問も実現している。年賀状は毎年全ての利用者が家族に出している。家族との外出・外泊は法人から規制が出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、思いやりある声掛けをされている場面もよく見られている。意思疎通の困難な方であっても一緒の場で過ごして頂き孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院でやむを得ず退居する事になった方、看取りにて退居された方でも必要に応じて家族に連絡を取り、本人の体調等について聞かせてもらうようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通して本人の思いや希望の把握に努めている。意思疎通困難であっても家族やスタッフと話し合い本人にとって良いケアが出来るように努めている。	諾否は表現できても、思いを言葉で表すのは難しい利用者が大半である。それでも日々の会話で本人の意思が把握できた時には情報を連絡ノート(業務用)と引き継ぎノート(個人別)に記し共有する。言葉の出ない利用者は表情で読み取りその後の試行錯誤の中から本人の意思を探っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで本人のこれまでの暮らしや大切にしている事を把握し生活の中でも活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎノートや連絡ノートを活用し、入居者の体調や状態をスタッフ同士で共有するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ヶ月に1回モニタリングを行い、体調・近況報告を行っている。その報告の中で家族からの意見や要望をお聞きし、本人を含めたカンファレンスを行いケアプランに組み込んでいる。	長期6か月、短期3か月で介護計画を作成し変化があればその都度変更している。2か月毎にモニタリング3か月毎にアセスメントを実施し、サービス担当者会議(医師・理学療法士・看護師・介護支援専門員・職員)で作成している。体調など近況を併記したモニタリング用紙を家族に送付し貰った意見を介護計画に取り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の状態を個人記録に記し、併せて各勤務者へ引継ぎを行い情報の共有を図りフロアー会議で個々に応じた対応を話し合い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば検討し、当施設で対応できない場合は他のサービスに繋げたり、地域のボランティアに依頼をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアと地域の見守り活動を共に週1回行っていた。音楽療法・紙芝居・ドッグセラピー・傾聴等のボランティアを取り入れ、地域と祭りを開催したり、地域協働に取り組んでいた。新型コロナウイルス感染流行の為、現在も中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族に同意を得たうえで内科と歯科は当法人内での定期的な往診を受け、必要な方は外来受診にて適切な医療の支援を受けている。	入居時に、本人・家族等の同意を得て、全員が法人の病院(在宅医療室)をかかりつけ医と定め、内科は月2回、歯科は希望者に月2回の診察と週1回の口腔ケアの訪問診療を受けている。看護師による月2回の健康管理と併せ、利用者は適切な医療を受けている。その他1名が、外部医療機関(心臓内科)を家族の通院介助で、受診している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護師による入居者の日常の健康管理を行い内服の取扱いや必要に応じて在宅医療へ相談するように助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病棟やMSWと連携し情報の共有、入居者・家族への情報提供に努め安心して入院治療、また早期に対応出来るように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての勉強会を定期的に行っている。重度化した場合や終末期のあり方について家族の意向をお聞きしている。	入居時に、重度化や終末期に向けた指針に沿って説明し、本人・家族等の意向を確認し、同意書もとることとした。終末期にあると医師が判断すれば、家族等に説明し納得が得られれば、看取り介護の同意書を取り職員と医療関係者の協働による看取り介護に入る。勉強会は、年間計画のほか随時行っている。昨年度は1名、現在も看取り介護1名がいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り定期的に学習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人が定期的に行う学習会で有事が起きた際の対応を勉強している。校区で行う会議の中でも有事が発生した場合の避難所や地域の民生委員などを交えて勉強会を行っている。	事業所が最も懸念する災害は、一級河川(淀川)に近いことから水害である。2階への垂直避難、近隣小学校への避難、長期化の恐れがある場合には法人の老健との連携体制も整えている。火災に対する総合自主訓練は定期的実施している(6月に実施済みで、12月にも予定)。備蓄食料品は、飲料水・食品(乾パン等)を3日分程度保管している。	次回の火災訓練に際しては、極力消防署の立ち合いを依頼し、2階利用者の安全な避難方法につき助言を得ておくことを望む。また、避難後の利用者の適切な保護について、近隣住民の理解と協力を得る対策を今から検討しておくことも期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、羞恥心に配慮しながらケアを行っている。個人情報に関しては鍵の掛かるロッカーに保管し管理を徹底している。	事業所理念の冒頭に「人権の尊重…」を謳い、法人設立の想いとも相まって、利用者を大切にする気持ちが職員に浸透しているのが支援の隅々に窺われる。それでも、仕事が重なっているときには、思わず「ちょっと待って」「後で」という言葉が職員から飛び出すこともあるので、都度の注意、チェックリストによる振り返りや研修等で正している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進行し、自身の思いを伝える事が困難な方でもスタッフがその思いを汲み取るように心掛けケアに取り組むようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	消灯時間・食事の時間のスケジュールは決まっているが入居者の生活ペースを大切に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは洗面台で見守りのもとご自身でして頂いている。自身で困難な方はスタッフが整えている。行事等の時はお化粧品等も楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に手作りランチやおやつを入居者と一緒に作っている。季節料理や色彩などには気を遣うように心掛けている。お手伝いが出来る方にはして頂いている。	業者からの献立・食材を使い、専任職員2名が昼・夕食を毎日調理している。利用者の「美味しい」との感想が家族アンケートに見られた。朝食は、夜勤職員が、ごはん・パン食を交互に用意している。利用者は、定期的におやつ作り(たこ焼き、鈴カステラ、しぐれや三色ゼリーなど)を楽しんでいる。男性利用者1名が、下膳や食器洗いに参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のカロリーや栄養を計算した食材の業者と契約し、毎日新鮮な食材が配達される。水分も1日1500cc以上を目標に摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全ての入居者に口腔ケアを行っている。自身で出来る方であってもスタッフが最終確認をしている。希望者には週1回歯科の口腔ケア・月2回口腔診察が行われている。口腔内のフレイル予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンに合わせて声掛け誘導を行っている。立位困難な方に対しては2人介助でトイレでの排泄を促している。	現在約4名の利用者が、昼夜とも支援を必要としない排泄自立者である。その他の利用者は、リハビリパンツ(パッド併用)で、職員のさりげない声掛けでトイレ誘導し、トイレでの排泄に努めている。夜間は、巡回によりトイレ誘導するほか、安眠を重視する利用者にはおむつ使用やパッド交換で対応している。ポータブルトイレの利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・排尿パターンを記録し、牛乳や水分の促しや軽い運動を行い便秘予防を行っている。便秘の方に対しては、医師の指示のもと下剤を服用しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴であるが、入居者の皮膚状態や汚れが気になるといった場合は必要に応じて入浴をして頂き、清潔保持に努めている。体調不良等で入浴出来ない場合は清拭を行っている。	浴室は、一般家庭用と同様である。職員は、全利用者がゆっくり湯舟に浸かりリラックスして欲しいと願っているが、約半数が湯舟を跨げず、シャワー浴となるケースが多い。特に冬場は、湯気や温風により少しでも体が暖まるよう職員が工夫を重ねている。シャンプーは事業所側で用意しているが、入浴剤使用や季節湯(しょうぶ・ゆず湯)は行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度や湿度の調整を行っている。入居者の状態に合わせて日中休む時間を作ったり、活動的に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される服薬説明書については各個人ファイルにファイリングし内容が確認できるようにしている。内服の変更があった際は個人記録と引継ぎノートに記入し情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で一緒に家事をしたり、本人の趣味趣向に合わせた余暇活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭に出て草抜きや種まきを一緒に行っている。近くの公園やスーパー・コンビニへ行き、散歩やお買い物を楽しんで頂いている。	現在は、職員と近隣公園への散歩や家族の通院介助以外は、法人方針により原則自粛している。利用者は、庭に設置した花壇での園芸(種まき、草むしりや水やり等)作業やその見守りで外気に触れている。今夏は、近隣住民が写真撮影に来るほど見事なヒマワリが咲いた。秋には利用者の家族の絵画展や庭先での花火を皆で楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物をする際は個々の能力に応じて支払いをお願いしている。金銭管理を希望される方に対しては鍵のかかる保管庫で保管し出納帳で管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末になると家族宛てに入居者本人が作成して年賀状を送っている。本人が希望すれば電話の取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日各フロアの掃除を行っている。明るい空間を作るためカーテンを明け晴れの日や雨の日、季節を感じてもらえるようにしている。定期的に空気の入替えを行い、感染症予防をしている。	リビング一面に大きな窓があり、明るく外の一日の様子や季節の移ろいも感じられる。利用者のプライバシーに配慮し、リビングのソファ等で過ごすか、居室で過ごすなど利用者それぞれが寛げる場所に配慮している。こまめな換気を行うことで感染症予防に注力し、壁面には手作り作品等が上品に配され、落ち着いた空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の入居者の気分によって窓辺や居室でゆっくりと過ごして頂いている。テレビ前や窓辺にソファを置き寛げる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた小物や家具・絵画等を持ち込んで頂き、居心地よく過ごしてもらえるようにしている。	居室には、ベッド・大きなクローゼット・ハンガー掛け・エアコン・照明等があらかじめ設置されている(洗面・トイレは共用部のものを利用)。利用者は、自宅からテレビや小物・家族の写真等を持ち込み自分の城を創っている。画家(家族)が描いた家族の絵をベッド際に置いた居室や興味ある詩を壁に張り付けた個性ある居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のストレングスに合わせて自らやろうとしている事に対しては危険がない限り見守りを行い、出来る機能の維持に努めている。		